

新刊紹介

白敷哲久監修

『小学館の子ども図鑑プレ NEO

まだある！ふしぎの図鑑—楽しく遊ぶ学ぶ—』

田島 宏一



2020年2月18日発行
 小学館
 AB判 192頁
 定価 2,800円(本体)

子どもの頃、私は親に「ぼうっとしないで、早く〇〇しなさい。」と言われる子どもだった。そして、それを言われた後、いつも決まって「何で、△△は□□なの？」と質問をしていたため、痺れを切らした親によく叱られたものだった。今思うとその質問は、「どうして今日は虹が見えないの？」「何で今日は風が冷たいの？」「何で昼間なのに月様が見えるの？」など、空についての質問ばかりだった。どうやら私は、いつも空ばかりを眺める子どもだったらしい。

たまたま私は、空に興味をもつ子どもだった。しかし、子どもの興味や疑問、発見はいつも固定されたものばかりではない。昨日は空に興味をもっていたとしても、今日は石に興味をもつかもたないかもしれない。そして、明日は……。このように、一見すると大人からは何を考えているかわからないと捉えられてしまうことがある子どもの言動は、実は自然科学の視野を広げたり、思考を深めたりする上でとても重要な役割を果たしている。しかし、その言動を受け止める親は、あるいは保育者や教師は、必ずしもその疑問や発見についていけるとも限らない。そうしたとき、一体どうやって子どもと向き合ったらよいのだろう。

本書は、前作の『ふしぎの図鑑』に続く第2巻目に当たり、子どもが暮らしの中で感じる素朴な疑問に対し、大人が「聞かれて困った！」というときに役立つ図鑑となっている。そして、取り上げられている疑問は、実際に小学生やその保護者から集められた「なぜ？」を厳選している。

本書は、「きかい」「せいかつ」「からだ」「いきもの」「そら」の順に構成されている。そして、1つ1つのタイトルは子どもの言葉で記されている。内容については、近年登

場してきた話題についても取り上げられており、「さわっても なにも かわらない がめんがあるのはなぜ？」というスマートフォンとテレビの画面の違いを探る話題では、大人も子どもと一緒に「どうしてだろうね？」と読み深め、知ることの喜びを共有できるものとなっている。また、子どもが一人で読んでも理解しやすいように、あるいは、大人が子どもに説明しやすいように、写真や絵などでていねいに説明されている。

一方で、「ペットボトルには どうして つるつると でこぼこがあるの？」という疑問のように、日常生活の中で大人がたいてい見落としがちの気づきにも焦点を当てている。実際に、ペットボトルにはどれくらいの種類の形状があるのであろうか。また、なぜ、形状の異なるものが存在しているのであろうか。本書を読んだ私自身も、この問いにとっても興味をもち、形状についての理由をじっくりと味わい、「なるほど」と納得させられた。きっとこのトピックを読んだ子どもたちも、日常生活でペットボトルを見たときに、「このペットボトルは〇〇だからこの形なんだね。」と思うに違いない。



さらには、「みたい！ しりたい！」のコーナーでは、普段の生活場面ではなかなかみることでできない写真や、自然災害に向けての心構えなどをまとめており、親子で探究したり話し合ったりする話題を提供してくれている。



このように、本書は図鑑と日常生活とをつなげて楽しめる工夫が全体に散りばめられている。日常生活で素通りしがちな話題についても、立ち止まってみると新たな発見がある。そうしたきっかけを与えてくれる本書は、図鑑として調べ物をするためだけの書物ではなく、知的好奇心をくすぐり、もっと知りたいと思える読み物となっている。

(たじま こういち 初等教育学科)